

現世界におけるチュチュ思想の正当性と生命力

インドネシア朝鮮友好協会書記長
テグ・サントーサ

2020年11月24日、インドネシア・朝鮮親善協会がインドネシアのチュチュ思想研究グループを結成しました。

インドネシア朝鮮親善協会は、世界で朝鮮民主主義人民共和国と結んだ最初の親善協会の中の一つです。インドネシア朝鮮親善協会は2001年に創立されたといえます。

しかし、歴史をさかのぼっていけばインドネシア・朝鮮親善協会が1960年代にすでに存在していたことが分かります。われわれは金日成花がインドネシアの専門家によって特別に栽培され、スカルノ大統領が1965年4月、ボゴール植物園で金日成主席との初対面の時に謹呈したインドネシアの原種の花であることを知っています。

金日成主席と金正日総書記のインドネシア訪問は、金日成主席にスカルノ大統領があげた金日成花とともにインドネシアと朝鮮との永遠な親善を象徴します。その親善はいつまでも続きました。

われわれは1955年バンドンでおこなわれたアジア、アフリカ諸国の会議の基本原則の中の一つである平和共存の原則に従っています。

平和共存の基本思想は個々の国が自己存在の範囲内で生存権と自主権行使の権利をもつということです。

一国の生存が他国によって脅威される時、脅威される国は自己の生存と自主権を擁護しうる堂々たる権利をもっています。また平和共存の原則は個々の国が他民族と他国の自主性と自主権を尊重しなければならないと教えています。

金正日総書記は著作「チュチュ思想について」でチュチュ思想が朝鮮革命の自主的で創造的な前途を示しただけでなく、人類歴史の新時代を開いたと教えました。

総書記はチュチュ思想を哲学的原理、社会歴史原理、指導的原則の三つの構成体系に区分しました。チュチュ思想は人間が自主性、創造性、意識性をもった社会的存在であるという原理を示しています。チュチュ思想は人間を世界の中心に据えています。人間はあらゆるものの主人であり、すべてを決定します。世界の改造を決定するのは人間です。

金正日総書記はまた人民大衆が歴史の主体であり、人類の歴史は人民大衆の自主性を実現し擁護するための闘争の歴史であると述べています。それとともに金正日総書記は自主的立場を堅持するためには思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛を具現しなければならないと教えました。

インドネシアのチュチェ思想研究グループの結成会でわれわれは新植民地主義と新帝国主義、そしてそのようなすべての表現に対処して世界の諸民族に該当する民族性と自主権に関する思想を確立することが重要であると強調しました。

チュチェ思想は日本の占領に反対する朝鮮民族の抵抗の時期に、朝鮮民主主義人民共和国の創建者である金日成主席によって創始されました。

初期に人々はチュチェ思想がマルクスの影響を受けた闘争思想だと見なしました。しかしその後、人々はチュチェ思想が独創的な思想であることを認識し始めました。

チュチェ思想は自己の運命の主人は自分自身であり、革命の主人もやはり自分自身であることを示しています。

チュチェ思想は他民族による抑圧に反対する朝鮮人民の闘争経験にもとづいて創始されました。チュチェ思想は自主性を実現し擁護するための思想です。

地政学的に見るとき、朝鮮民主主義人民共和国は中国、ロシア、日本といった大国によって囲まれています。この地政学的な現実には朝鮮民主主義人民共和国をして自主性を堅持し、実現するように促しました。

チュチェ思想があつてわれわれは、わが民族が他民族に自己の運命を依存する民族ではなく、自民族に依存する民族であるということを世界に宣言することができるのです。